

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	14	学 校 名	静岡県立浜名特別支援学校	校 長 名	村松 尚美
------	----	-------	--------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組 目標	成果目標	達成状況	評価	成果◎と課題▲
【笑顔】 環境づくり	安全で 安心な 学校生活	・避難生活を見据えた備蓄消耗品の定期的な点検と計画的な購入、避難生活想定研修が実施されている。 ・様々な発災時に必要な避難行動を、訓練時に自ら行うことができている。 ・避難生活に見通しをもてる体験活動を複数組み合わせ実施している。	<防災課> ・計画的に避難生活想定研修を実施することができた。 ・マニュアルの確認を全教員で行った。分掌課員を中心に備蓄消耗品の点検を行った。 ・避難訓練をとおして、事前事後指導を行うことで児童生徒が適切な避難行動を行うことができた。と答えた教員 99% ・危機管理マニュアルや搜索訓練、緊急時対応訓練などを通して緊急時に自分がとるべき行動を理解することができた。と答えた教員 99%	A	▲常にマニュアルを見直し、来年度は災害時の初動について分かりやすくしていく。 ◎昼休み、下校時など様々な発災時の訓練を実施することができ、その都度事前事後指導を行うことができた。 ◎段ボールベット、マンホールトイレの組み立て等、学部の実態に応じた体験活動を実施することができた。
		・児童生徒がけがや病気から身を守る行動がとれている。 ・常に事故や危険防止の視点をもって環境を整えている教員 100% ・緊急時に自分がとるべき行動を理解している教員 90% ・児童生徒が食に関する知識や関心を見に付けることができている。	<体育保健課> ・けがや病気から身を守る行動がとれたり、けがや病気の対処法が分かったりする児童生徒 99% <生徒指導課> ・緊急時に自分がとるべき行動を理解している教員 100% <体育保健課> ・給食が美味しいや楽しいなどと答えた児童生徒 100%	B	◎保健の授業だけでなく、日常生活の中で声掛けが必要なときはあるが手洗いなど身に付いてきた。 ▲学年、学部全体で保健の授業内容を把握し、全員で指導していく必要がある。保健の年間指導計画を活用して授業実践したことを共有し日常生活から指導していく。 ◎おすすめ献立や季節の献立、栄養教諭との授業など、食に関する指導の内容を考えることで、授業で学んだことを給食時に生かせることができた。 ▲今後は、食事のマナーや楽しく食べる工夫に取り組みたい。

様式第3号

		・事務部との情報共有により校内で早期に対応する環境整備ができています。	<事務部> ・情報共有や連携により、早期に対応し、環境整備ができた。 <総務課> ・職員作業や安全点検により施設整備の環境整備に取り組んだ教員 100%	A	◎対応を後回しにすることなく、事務室内や管理職と情報共有することで早期対応ができた。 ◎安全点検や週末清掃は、総務課担当が呼び掛けを行うことで、全職員が取り組むことができた。
		・児童生徒が、自分や周囲の人や物、場所の良さを知り大切にしている。	<学部> ・学校を取り巻く環境を改めて知り、命の大切さや物の大切さを知ることができた。	B	◎昆虫を捕まえ大事に育てた。 (小) 地域の方と海岸清掃を行った。(中) 桜チップを地域の店に納品した。(高) 児童生徒昇降口に掲示してある学校を取り巻く環境マップを全校生徒で取り組んだりした。(全校) ▲道徳教育全体計画は、年度始めに確認したが、内容を意識し取り扱うことができなかった。年度始めに人権担当から説明する時間を設けたい。
		・道徳教育全体計画に基づき道徳教育の充実が図れたと答える教員 100%	<生徒指導課> ・道徳教育全体計画に基づき道徳教育の充実が図れたと答えた教員 91%		
	専門性の向上	・主体的に授業づくりに取り組み、授業改善を行うことができた教員 100% ・積極的に一授業研等を参観し、アドバイスをを行うことができた教員(中堅研を終えた教員 所属学部 他学部 各一回以上) 80%	<研修課> ・主体的に授業の見直しに取り組む、指導力が向上したと答えた教員 100% ・一人一授業研や校内授業研、普段の授業を参観し、授業者が指導してほしい視点についてアドバイスをを行うことができた。(所属学部、他学部 各1回以上) 77%	B	◎他の人の意見を聞くことは有意義である。次の授業や単元に生かすことができた。 ▲授業を抜けて参観することの難しさがあった。中堅以上の立場として、積極的なアドバイスができなかった。参観の仕方について検討する。
		・防災、自立活動、進路、摂食等の外部専門家等による研修を実際の指導場面等に生かすことができたと答える教員 100%	・防災、自立活動、進路、摂食等の外部専門家等による研修を実際の指導場面等に生かすことができたと答える教員 100%	A	◎姿勢の保持や給食指導など、外部からいただいた専門的なアドバイスは、すぐに取り入れた。また福祉制度は変化していくので、年に一度話を聞けるとよい。

	働きがいのある職場づくり	・自分らしさを発揮できたと答える職員 75% ・日々の会話の中で相手を気遣う言葉を伝えることができた職員 100% ・気遣いの言葉を複数回受けた職員 100% ・業務改善や教員のやりがい向上につながる取り組みを行うことができた。学年、分掌、各1ずつ ・常時19時、定時退勤日17時30分施錠と残留希望申し出（上限1時間）の徹底がされている。90%	<全体> ・自分の強みや経験などを生かし、自分らしさを発揮しながら仕事ができたと答える教員 96% ・日々の会話の中で相手を気遣う言葉を伝えることができたと答える教員 100% ・気遣いの言葉を複数回受けたと答える教員 98% ・業務改善や教員のやりがい向上につながる取り組みを行うことができた。学年、分掌、各1ずつ ・常時19時、定時退勤日17時30分施錠と残留希望申し出（上限1時間）の徹底がされていると答える教員 90%	A	◎自分の与えられた業務や役割を意識し仕事をすることができた。 ◎お互い思いやりをもちながら、分掌業務など協力して取り組むことができた。 ◎やりがい向上委員会を年2回開催した。特に働きやすい雰囲気づくりについて話題とした。 ◎やりがい向上委員会に参加した教員が、自ら挨拶をするなど、雰囲気づくりに努めることができた。 ◎年度始めや行事の際は、数人退勤時間が上限を超えてしまった職員もいるが、概ね達成できた。
【仲間】活動づくり	仲間との学びの中で、主体性を発揮できる活動づくり	・児童生徒個々の自立活動や個別の目標が、複数の教員の視点からたてられている。 ・個別の指導計画が授業の計画・反省時に活用され、児童生徒の育ちにつながっている。 ・授業づくりの評価に基づき、教科横断的な視点で年間指導計画や教育課程の見直しができている。	<学習指導課> ・複数の視点で児童生徒を捉え、情報を共有し、検討を行うことにより、的確な実態把握と目標設定を行うことができたと答える教員 100% <教務課> ・個別の指導計画をもとに行われた、今年度の学習活動から、子どもの育ちを感じることができたと答える教員 96% <学習指導課> ・年間指導計画について意見を出し合い、各教科等のつながりを考えたり、ねらいを具体化したりすることができたと答える教員 97%	A	◎学習会、事例検討などを実施することで、意識的に複数の視点で実態把握、目標設定を行うことができた。 ◎個別の指導計画を面談の際保護者に提示し共有することで、家庭でも同じように取り組む、子どもたちの成長に役立てることができた。 ◎児童生徒の学習の評価から、年計について意見を出し合う場や方法を設定することで計画の見直しや、改善につなげることはできた。 ▲各教科等の関連性や、学びの継続、単元のつながりなどを意識した年計の内容を検討していく。
		・見取りによる授業改善と適切な学習評価ができたと答える教員 90% ・すべての児童生徒の主体的な姿をすべての授業で見ることができた。90%	<研修課> ・児童生徒が自らの学習の成果を実感できるように、学びの過程や学習状況を見取り、見取りを行う教員同士で考えを聞き合う授業づくりができたと答える教員 100%	A	◎見取りの共有から気付かなかった姿を知ることができたり、活発な話し合いができたしたりした。 ▲見取りの共有から授業改善の意見を出し合う場を増やしたい。

【仲間】活動づくり		・体験的活動をとおり、児童生徒がワクワク（期待感と意欲）している姿が増えたり、仲間との関係が深まったりしている。	<学部> ・体験的な活動が児童の興味や人との関わりを広げることにつながったと答えた教員 100%	A	◎体験的な活動を意図的に取り入れることで、児童生徒の興味関心が深まり、友達同士のやりとりが増えた。
		・キャリア教育のおさえを意識し、キャリア発達に応じた授業を実践した教員 100% ・児童生徒が今の生活や将来の姿を前向きにとらえることができる。	<進路指導課> ・キャリア教育の押さえを意識し、キャリア教育に応じた授業実践ができたと答える教員 100%	A	◎年間を通して授業等で自己分析、自己理解を深める授業づくりをしたことで進路選択につなげることができた。
		・教師が情報機器を使用し、児童生徒の主体性を引き出した学習活動ができている。	<学習指導課> ・教師が効果的にICT機器を活用した授業を実施し、児童生徒が主体的に学習することができたと答える教員 100%	A	◎調べ学習でICTを積極的に活用することができた。研修会を行うことで教員のICT機器に関する理解を深めることができた。 ▲今後も授業に積極的にICT機器を活用するようにしていく。
	豊かな日常生活を育む活動づくり	・生活年齢や発達段階に合わせた余暇につながる活動に、児童生徒が興味をもって自ら取り組んでいる。 ・家庭でも取り入れてもらえるよう呼びかけを行っている。	<学部> ・学習成果の家庭との共有、家庭と連携した指導実践ができたと答えた教員 100%	A	◎学級活動やLHRなどで取り組んだ内容について、便りで知らせるなどして家庭への呼び掛けを行うことができた。家庭では、公共交通機関を利用して出掛けたり、手伝いを行ったり取り組みが聞かれた。
		・集会やペア学年との活動をとおり、他学部や他学年の児童生徒とあいさつを交わし合うことができるようになっている。 ・体育的行事や学習発表会の中でお互いの活動を知り応援することができている。	<生徒指導課> ・生徒会を主体としたあいさつ運動の計画・実施（年3会） <総務課> ・ペア学年での校内清掃を実施した。 <体育保健課> ・体育的行事の中でお互いの活動を知り応援することができたと答える教員 100%	A	◎毎学期始めに行うことで、学校を明るい雰囲気にすることができた。 ◎ピカピカ大作戦として、異学年同士がペアを組み校内の清掃を実施した。 ◎運動会、体育大会は学部開催であったため、総練習、当日など他学部の児童生徒が積極的に応援に行き、頑張っている姿を参観することができた。

【地域】関係づくり	地域を知り、地域を考え、地域とつながる活動の推進	- 各学部の環境教育の目標に沿った学習と、学部学年が上がるごとに発展性がある取り組みが計画されている。 - 地域とつながり、連携した環境学習が展開できている。	＜総務＞ - 環境教育に関する授業実践や話し合いができたと答えた教員 100% ＜学部＞ - 学年の実態に応じて、環境教育を実践した。 - 校区内の公園に出掛けたり、海岸清掃をしたり、作業学習で育てた野菜をかきこやで調理し販売したりした。	A	◎学期1回グループワークを行い、環境教育について理解を深めることができた。授業で使用する教材を用意することもできた。 ▲年間計画に位置付けていく。
		地域住民との交流が生まれ、地域資源を活用した学習活動ができている。	＜学部＞ 各学部の実態に応じて、地域に出ていく学習を計画的に取り組むことができた。	A	◎消防署やごみ処理場に出掛け、公共施設の仕組みについて教えてもらった。(小・中)作業製品の販売や、店舗の窓清掃に取り組んだ(高)
		- 支援が必要なケースを正しく把握し、各機関等とつながりながら児童生徒や保護者の願いに寄り添う支援をしている。 - 家庭や地域へ分かりやすくタイムリーな情報発信ができている。 - 校内作品展や校外作品展、ホームページ上の作品展等を計画的に開催し、来場者の意見を集約及び校内で共有できている。	＜特別支援課＞ - 支援区分表を活用して、学部・学年間で支援の共有をすることや、必要に応じて関係機関とつながりをもち支援できていると答える教員 98% ＜学習指導課＞ - ホームページやコクーを使い分けながら情報を発信する。 ＜総務課＞ - 作品展の作品募集や搬入・搬出を計画的に行う。	A	◎支援区分表は、手順を分かりやすく提示し依頼をしたところで必要な時期に学年、学部での検討や情報共有ができた。 ◎ホームページやコクーを使い分けながら情報を発信した。 ▲より多様な発信を考えていく。 ◎多くの児童生徒の作品が出展できるよう計画的に作品展に出展した。
		児童生徒が互いを知り合い、その中で自らを表現できる活動内容になっている。	＜特別支援課＞ 児童生徒自らが互いを知り合いその中で自らを表現できる活動を設定できたと答える教員 100%	A	◎事前の打合せを丁寧に行うことで、直接交流で互いを知り合い、活動をすることができた。 ▲今後も事前の打合せを行っていく。
		地域の幼保園や小中高からの依頼に対して必要なサポートをすることができている。	＜特別支援課＞ 地域の幼保園や小中高からの依頼に対して必要なサポートをすることができていると答える。	A	◎研修会や高等学校への訪問等でコーディネーター同士のつながりができてきている。